

令和5年度 学校自己評価表 (最終評価)

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

教育 目標	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をとおり、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をとおり、他人を思いやり、友情を育み、さらに心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
----------	--

A[90%以上] B[89~70%] C[69~50%] D[49~30%] E[29%以下]

重点目標	1 心身ともに健やかな生徒の育成 2 生徒の夢や希望が叶えられる学校づくり 3 地域に愛され、信頼される学校づくり 4 専門教育の推進
------	--

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果(最終評価)		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 心身ともに健やかな生徒の育成	基本的な生活習慣の確立とマナーの徹底【生活部】	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶」「時間」「身だしなみ」の3点を中心とし、基本的な生活習慣の確立を目指している。 礼法指導、遅刻指導、整理整頓指導、清掃指導などを通じて、生活習慣を整える習慣を身につけさせたい。 「時間」を守ることについては、学科・学年と連携して指導している。「防げる遅刻」の年間実績は53回となり、昨年度より12回増加している。遅刻回数においては年々増加している傾向である。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間「防げる遅刻」を24回以下とする。(昨年度は目標を20回以下と設定し、53回) 校内外で明るく気持ちのよい、心のこもった挨拶ができる。 学校アンケート(保護者)の『規律・マナー』項目の「1・2」評価の平均を90%以上とする。(昨年85%、一昨年87%) 学校アンケート(生徒)の『挨拶』項目の「1・2」評価の平均を90%以上とする。(昨年91%、一昨年87%) 学校アンケート(生徒)の『学校のきまり』項目の「1・2」評価の平均を90%以上とする。(昨年93%) 	<ul style="list-style-type: none"> 年間の「防げる遅刻」の目標を生徒会執行部との協議の上設定し、生徒主体で取り組めるように働きかけをする 教職員で率先して「あいさつ」することを共通認識し、また、授業内での「あいさつ」指導も年度当初の重点目標と位置づけ全教職員で取り組む。 朝読書を8時35分にスムーズに始められるよう、5分前の8時30分着席の指導を生徒会執行部、教職員で実施していく。(生徒会執行部からの声掛け運動、あいさつ運動と連携して教職員の教室での声掛け運動を計画) 生徒の進路実現、自己実現を見据えた中で、生徒が主体的な行動者となるよう、授業、部活動、学科、生徒会執行部と連携し、教職員の共通認識を大切に指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「防げる遅刻」については、2学期までで、38回(内訳:1年17回、2年7回、3年14回)となっており、2学期に昨年度ペースを超えて増加した。 校内での気持ちのよい挨拶に関しては、まだまだ浸透していない状況だが、生徒の挨拶に対する意識の自己評価は高い(6月、12月ともに90%以上)。 学校アンケート(保護者)の『規律・マナー』項目の「1・2」評価は85%であった。 学校アンケート(生徒)の『挨拶』項目の「1・2」評価は90.5%であった。 学校アンケート(生徒)の『学校のきまり』項目の「1・2」評価は92.3%であった。 交通ルール・マナーに関するアンケートを実施。啓発活動を継続していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部とともに、今年度当初から、時間厳守を柱に啓発活動を行った。今後、挨拶に焦点を当てた啓発活動を、生徒会執行部と連携をとって実施していきたい。 朝読書の時間が気持ち良く開始できるよう、5分前着席指導を生徒会、教職員で連携する。 教職員の共通認識を図り、様々な指導機会を学年、科、クラブ活動における系統的な指導、声掛けを実践していく。 年度当初の1学期中間考査までを、重点期間として、今年度の課題を学校をあげて意識づけしていく。
	部活動・生徒会活動の奨励【生徒部】	<ul style="list-style-type: none"> 今年の4月時点の部活動等加入率(1年94% 2年91% 3年80%) 生徒会執行部の学年別構成(1年0人 2年7人 3年19人) 執行部会は生徒会行事前のみ開催 学校生活アンケート結果(昨年の7月→12月)学校行事に楽しく参加協力できた 96%→96%部活動に積極的に取り組んでいる 81%→81% 教員に言われて活動する場面が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> 執行部加入も含めて加入率95%以上を目標とする。 執行部への1・2年生の積極的参加 生徒会執行部会およびクラブ運営委員会が定例化し、活性化している。 生徒自身が主体的に体育祭・学校祭等生徒会活動を企画運営している。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動未加入者への執行部・学校祭実行委員会への参加呼びかけをする。 LHR等の学年レクリエーションにおいて執行部員を活用する。 会議を定例化し、GoogleClassroomを活用する。 他校の学校祭の見学や執行部との交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 12月時点での部活動加入率90%(1年90%2年91%)。執行部26人。学校祭実行委員26人。 目標の95%には達しなかったが、未加入の生徒に声をかけをし、入部した生徒があった。 必要に応じて、執行部会や実行委員会を開催した。 体育祭・学校祭準備等、生徒が主体的に企画・準備・運営をし、多くの生徒が活動できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率95%に向けて、粘り強く勧誘する。 各種生徒会行事の生徒の主体的な取組を推進していく。 執行部への1・2年生の積極的参加を呼びかける。
2 生徒の夢や希望が叶えられる学校づくり	進路指導の充実【進路部】	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力が十分身につけていない。 就職希望者支援体制についてはできていないが、進学指導に関しては、個別指導による部分が多い。 昨年度も就職内定率が100%であった。 リモートによる応募前職場見学や面接試験、適性検査が増加し、進路部職員だけでは対応できなくなりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に進路行事を実施し、キャリア教育を充実させる。 学習指導委員会による進学支援体制を確立させる。 年度内に就職内定率を100%とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施、職業観・勤労観の育成に努める。 1年次から進学者補習を計画して、大学・短大や医療系専門学校を希望する生徒の学力向上に努める。 進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。 12月から2年生の進路指導に取り組み、生徒が進路実現に向けて行動できるよう計画的に個別に指導を行う。 リモートに対応するため、3年学年団にも協力を依頼する。 定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部を中心に県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を収集し、共有する。 4月の面接週間に3年生就職希望者に対する進路部との面談を行い、進路指導がよりスムーズに行われるようにする。 1年生対象の進路講演会を早期に開催することで、基礎学力の必要性を理解させ、向上を目指すよう取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職76名、進学59名(四大14人、短大8名、専門学校37名)の進路希望であった。就職希望者、進学希望者ともに進路未決定の生徒が数名残っているが方向性は決まっている。 学校推薦型選抜で学科試験や小論文が課されるケースが増えたため、個別指導に対応した。また、小論文指導については外部講師による教職員研修会、国語科に協力していただいた小論文の書き方指導とともに朝読書の時間に小論文の良文を読ませる時間を設けて指導の充実を図った。 進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施することができた。また倉吉商工会議所、倉吉市役所と連携して1年生対象の倉吉市企業説明会を実施した。 1年生対象の進路講演会を校外模試前に実施するとともに、講師を招いて、教員対象に教科ごとの学力分析を行った。 4月に3年生就職希望者に対する進路部との面談を行い、その後の進路指導に活かすことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談を積極的にを行いながら早期に進路意識が高められるよう指導を徹底する。 3年生の就職希望者に対してより確実な進路指導を行うために、年度当初に進路部就職担当との面談を計画する。 四大、看護、医療、栄養系に進学する生徒に対して、進学後に必要な学力をつけるため、自由登校期間中の補習(理科、数学、英語)を実施する予定である。 1年生から進学希望者補習を実施して、大学、短大等を希望している進学希望者の学力向上を図る。 進路の手引、求人票、資格の手引のデータ化を行い、クロームブックで閲覧できるようにする。
	将来のスペシャリストの育成(資格・検定の取得やインターンシップ)【進路部】	<ul style="list-style-type: none"> 進路部で資格・検定を推進している。各科で目標としている資格・検定に挑戦している。 インターンシップ・デュアルシステムの実施については徐々にコロナ過前の状況に戻ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得を意欲的に取り組ませる。 低学年から進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムを充実させ、勤労観・職業観を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得・上級資格取得のための計画的で充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。 多様な進路選択を可能にするためにも資格取得にチャレンジするように促す。 インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に資格取得に挑戦している。 インターンシップは台風の影響により1日臨時休業となり、2日間の実施となったが、生徒の職業観や勤労観を養うことができた。 事前・事後指導の時間を増やし、報告会等の充実を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 資格試験の合格に向けて、自発的に取組む生徒の育成に努める。 インターンシップ、ビジネス実習は、生徒の職業観や勤労観を養ううえで重要な役割を果たしている。
	進路に対応できる学力の定着【教務部】	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の基礎学力や学習意欲に大きな差がある。定期考査や資格取得などに関する学習には意欲的であるが、授業に向けた家庭学習時間は少ない。 授業時間数の偏りが生じている。 売り買いボードの活用状況は十分ではない。 進路に応じた選択科目の履修ができるよう説明会を実施し、生徒の実態と進路希望に合わせるため学校設定科目を設置し対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣が定着し、基礎学力の向上が図られている。 ICT端末が授業での利用だけでなく、進路選択につながる情報収集ツールとして活用されている。 授業時間数が確保され、自習時間が削減されている。 進路に応じた選択科目が適切に履修されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心の幅を広げ、生徒が自発的に知識と情報を求めるようなICT端末の活用となる方法を検討する。 時間割の入れ替えや授業の売り買いを積極的にを行い、授業が自習時間とならないように取り組む。 選択説明を丁寧に行い、進路希望に合った履修を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2学年が学習支援サービス「Classi」を継続的に活用している。 学校生活に関するアンケートで、生徒の家庭学習時間の平日・休日ともに「0分」の割合が7月から12月にかけて10%増加している。 授業の入れ替えや売り買いに取り組んでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援サービス「Classi」を継続的に活用し、更なる効果的な活用方法を見つけていく。 アンケート結果について細かく分析を行い、対策について検討していく。
	思考力・判断力の向上【教務部】	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は落ち着いて生活しているが、反面、主体的に学習に取り組んだり、自ら考え判断し、自発的に行動したりすることができる生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力や判断力の育成のために、課題探究的な学習や対話的な学習活動が実践されている。 達成感や自己肯定感を持った生徒が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力の向上やICT機器の活用に向けて、全教員が参加する授業研究会を実施する。 学校行事・科の取組み、成果発表、ボランティアなど、校内・校外を問わず、生徒が活躍できる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会を実施し、教科や経験を超えて意見を出し合うことで、よりよい授業づくりへのヒントを得るための機会となった。 学校行事や科の取組みなどで生徒が活躍できる機会を多く確保できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がICTを活用して学んでいく授業づくりに取り組んでいく。 引き続き生徒が活躍できる機会を確保していく。
3 地域に愛され、信頼される学校づくり	地域とともにある学校づくり(学校運営協議会)【管理職】	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、学校運営協議会委員の学校への訪問はほぼ学校運営協議会に限られた。ただし、学校運営協議会では今後の学校の在り方に資する意見や助言が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の委員や地域の方の来校があり、地域に開かれた活気のある学校になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の更なる活性化と地域と協働した活動を計画する。特に地域に生徒の顔が見える取組を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月と9月に学校運営協議会を開催し、いずれの会においても建設的な意見や提案を受けた。2月に3回目を実施する予定である。 2月に倉吉未来中心で開催する課題研究発表会に参加していただく予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の取組を理解してもらうために、行事への参加依頼だけでなく、PTA会報などを定期的に送付する。 授業参観ができていないので、授業参観をメインにした協議会を開催する。
	地域への情報発信(積極的な広報活動)【総務部】	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの記事のアップは1月25日現在で224件、アクセス数も98,719であった。学校全体で情報発信の意識が上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ記載更新が行われ、学校行事、各科の学習活動、部活動の大会状況が配信されている。 学校ホームページの閲覧者が多く、地域と連携した活動が盛んに行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事について、積極的に総務部から各担当者にホームページやSNSへの掲載を依頼する。また、新聞社やテレビ局などマスコミにも適宜情報を提供する。 ホームページがさらに充実するように、更新頻度の少ない学習活動・部活動に依頼する。 意識してホームページのアップを心掛けるとともに、より見やすいホームページを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞社やマスコミに情報提供し多く取り上げていただいた。 月によって増減はあるが、ホームページのアップ数、閲覧数ともに昨年並みである。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きホームページの更新頻度の少ない学習活動・部活動に依頼する。また、現状に満足せずマスコミに情報提供し学校の様子を多くの方に知っていただく。 学校公式SNSへの投稿も呼びかける。

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果(最終評価)			
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
3 地域に愛され、信頼される学校づくり	地域・産業界との交流【各学科】	M	・二年間途絶えていた自動車整備体験学習への参加や、課題研究を通じた上北条コミュニティセンターとの交流・連携を図る機会が増えつつある。	・課題研究や検定指導において、地元企業や社会人講師と連携しながらものづくりに取り組む。	・学校ホームページや課題研究発表会などあらゆる機会を通じて、科の取り組みについて積極的に情報発信し、連携の機会を増やしていく。	自動車整備体験学習へ多くの生徒が参加したり、上北条コミュニティセンターと連携した遊具製作を行い、その取り組みについて、中部ハイスクールフォーラムで多くの方に知っていただく機会もできた。	B	今後は、地元企業や新たな施設、関連組織と連携した取り組みを検討していきたい。
		E	・鳥取県電気工事業組合との共同作業で、倉吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、地域に貢献した。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動について、地区民生委員の方と電業協会中部支部と連携をし、地域に貢献した。	・イルミネーションの取り付けなど、地域産業との交流が図られている。 ・地域の家庭に Outreach、奉仕活動を行うことで地域住民との連携が図られている。	・鳥取県電気工事業組合との意見交換会でイルミネーション設置について、アイデアの提案等を行う。 ・「電気の技術を生かした福祉活動」の活動前後で民生委員、電業協会、教職員・生徒との意見交換を行い連携をとる。	・鳥取県電業協会中部支部と適宜連絡を取り合い、イルミネーションの設置・点灯式・撤去を無事完了することができた。 ・「電気の技術を活かした福祉活動」について、倉吉市社会福祉協議会担当者とおして、住民の要望も事前に詳しく知ることができ、地域との交流が図れた。	A	・来年度も鳥取県電業協会中部支部及び倉吉市社会福祉協議会担当者との連携を深め、活動を継続していきたい。 ・イルミネーションの取り組みを課題研究と関連付けて、よりよい活動にしていきたい。
		C	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」ともに予定通り開催できた。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」を通して、地域の方々との交流や事業所との連携から、地域産業の理解が深められ郷土愛が育まれている。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の学習内容の充実に努める。	課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」は予定通り開催することができた。「ビジネス実習」の後期はインフルエンザ流行による学級閉鎖のため予定通りに行うことができなかった。	B	今後の課題研究については、開催回数・開催方法などについて再度検討していく必要がある。インフルエンザやコロナの流行時期が読めなくなっており事前に対応策を考えていきたい。
		D	・昨年度は、課題研究(保育分野)で認定こども園計6回、「生活と福祉」の授業では2・3年とも一回ずつ高齢者福祉施設でのリモート交流を行った。その他の保育交流や企業見学はコロナの感染拡大により中止となり、高齢者福祉施設は立ち入り禁止の状態により訪問できなかった。	・認定こども園や高齢者福祉施設での交流や実習を実施し、職業観やコミュニケーション技術の育成をする。 ・ボランティア活動への参加者を増やす。 ・企業見学を実施する。	・交流活動や実習ではねらいを明確にし、コミュニケーション活動が円滑に行われるように指導する。また、観察を通して職業理解が深められるように計画する。 ・実施時期の計画を早めに行い、延期できるように時期を設定する。 ・ボランティア活動のアナウンスを積極的に行う。	・3年生活福祉コースによる高齢者との交流10回、向山保育園との交流1回、課題研究(保育分野)による聖テレジアこども園交流7回、各学年社会人講師による講習会9回、企業見学1回など、多くの施設・企業等から協力を受け、職業間の育成やコミュニケーション技術の機会を設けることができた。課題研究(食分野)では、とみや冷蔵株式会社(他2社)と三朝町役場の協力を得て開発した商品を、打吹回廊やショッピングセンターアプトで販売した。 ・夏のボランティア体験事業には多くの生徒が申し込んだが、その後は特定の生徒の申し込みになり、参加者数はあまり増えなかった。	A	・交流や社会人講師による講習会は、来年度も同様の内容で企画していく。 ・コロナ禍で交流やボランティア経験を積んでいない生徒が多く、参加に対して関心が薄いと感じる。授業の中で異世代と触れ合う機会や、地元企業との講習会などで外の世界を知る体験を企画し、関心が向くようにしていく。
4 専門教育の推進	専門分野の基本的知識・技術をもち、チャレンジ精神に富んだ人材の育成【各学科】	M	・製図検定や各種技能検定など、資格取得に積極的に挑戦する生徒が増えてきている。	・ジュニアマイスターのゴールドやシルバー取得を目指す生徒が増える。	・授業や実習内容と関連づけながら、生徒へ資格に関する情報提供の機会を増やす。	・授業や実習などの時間を通して、検定などの資格案内や取得意義についての説明機会を増やすよう心がけた。 ・今年、初めてスーパー工業士の認定プログラム1名の生徒がチャレンジしている。	B	・ジュニアマイスター認定者や工業士認定プログラムを希望する生徒が増えるよう、取り組みや活躍を先輩たちに伝えながら、認定に向かう生徒を増やしていく。
		E	・社会人講師活用事業において、鳥取県電業協会中部支部に電気製図の指導を受け、生徒の知識・技術の向上を図ることができた。 ・新型コロナウイルスの関係で、鳥取県電業協会中部支部から高校生ものづくりコンテストに向けての技術指導を受けることができなかったが、1名の生徒が中国大会出場を果たした。	・生徒の電気工事、電気製図などの知識・技術が向上している。 ・高校生ものづくりコンテストにおいて上位に入賞している。	・鳥取県電業協会中部支部の指導を受ける機会を作り、生徒の知識・技術の向上を図る。	・鳥取県電業協会中部支部に電気工事および電気製図の指導をしていたが、生徒は知識・技術を向上することができた。 ・令和5年度高校生ものづくりコンテスト電気工部門中国大会に出場することができた。 ・令和5年度高校生ものづくりコンテスト電気工部門大会に7名が出場し、来年度の中国大会への出場権を得ることができた。	A	・来年度も鳥取県電業協会中部支部との連携を深め、活動を継続していきたい。 ・今年度は鳥取県電業協会中部支部の技術指導を受けることが出来なかったが、来年度は状況を見て技術指導を受けることも検討する。
		C	・学年により、資格取得の取組の差が成果にも表れている。 ・クラス内で生徒間に学力差があり、一斉授業での指導に工夫を要する。	・資格取得に向けて計画的に努力し、チャレンジ精神を養っている。	・可能な限り、習熟度別や少人数の授業展開に取り組む。 ・長期休業中や放課後に課外授業を実施し、上位級取得目標の生徒や学力不振生徒に対応していく。	・1月後半から検定試験が本格的に始まるため、検定合格に向け、計画的に補習等に取り組んできた。	B	・クラス内で生徒間に学力差があり、一斉授業での指導や課外授業への取り組みなどに工夫していく。
		D	・専門科目の授業については真面目に取り組んでいるが、知識と技術の定着には時間がかかる生徒が多い。全体的に控えて、チャレンジ精神旺盛とは言えない。	・身に付けた知識と技術の確認と定着のためにも、検定試験を積極的に受験する。 ・コンテストへの応募や、ボランティア活動など外部の活動に参加する。	・各種検定・コンテスト・ボランティア活動への参加を促す。	・食物検定1級は、受験者数昨年度4人から今年度18人、洋服2級は昨年度16人から今年度5人と、大幅に増えた級と減った級があった。また、食物1級・洋服1級・和服1級をすべて取得する3冠王対象者は昨年度0人から今年度4人と増えた。	B	・検定に向かう雰囲気は、クラスによって差があると感じている。雰囲気は左右されず、技術の定着や生徒自身の技能習得の証明となることを、授業の中で積極的に伝えていきたい。また、合格水準にある生徒については、個別に声掛けをしていく。
		M	・自分の進路に沿いながら、他学科の科目を選択し習得している生徒が増えている。 ・他科からの様々な要望に応えることで、生徒が達成感を感じられた。	・総合選択制を活用しながら、自分の個性にあった主体的な科目選択が生徒自らできている。	・シラバスなどを活用し、選択科目に関する丁寧な説明を行い、生徒にとっより良い科目選択が行えるよう情報提供の機会を増やしていく。 ・課題研究などの時間を活用し、柔軟に対応できる時間をつくる。	・くらそうやを通しての連携はできなかった。 ・来年度に向けての選択科目は、自科のみの科目選択に偏らず、生徒一人一人の進路や希望を踏まえながら、幅広く科目選択ができている。	B	・引き続き課題研究や授業を通して、他科との連携について検討していく。
	学科の枠を超えた取組の実践【各学科】	E	・「くらそうや」において「おもちゃの病院」を開き、おもちゃの修理を行うことができた。 ・「くらそうや」への「商品提供」を行うことができた。	・「くらそうや」に電気科として「おもちゃの病院」及び「商品提供」ができている。	・課題研究「テクニカルボランティア」をとおして「おもちゃの病院」を行う。 ・電気工学部と連携して「商品提供」を行う。また、課題研究の中でもアイデアを出して、商品作成を行う。	・「くらそうや」で「おもちゃの病院」を行い、17個のおもちゃを持ってきてもらった。そして、その内の13個を修理することができた。 ・電気工学部や課題研究の取り組みで、「くらそうや」で販売する商品「写真スタンド」を提供することができ、たくさんのお客様に購入していただいた。	A	・来年度も「おもちゃの病院」の実施に向けて、ビジネス科と連携を図っていく。 ・来年度も電気の技術を活かした商品を製作し、「くらそうや」に提供していきたい。
		C	・課題研究「くらそうや」において、他科から販売商品を提供してもらっている。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」や「アプリケーション演習」で、ビジネスマナーや基礎的なワードやエクセル操作を習得している。	・課題研究「くらそうや」の商品を提供する他科に、消費者の反応や意見をフィードバックすることで、ニーズある製品作りに活かされている。 ・ビジネスコミュニケーションの知識や技能を習得し、学校生活で実践している。	・課題研究「くらそうや」にて、消費者と積極的にコミュニケーションをとり、商品に関する感想や意見を丁寧に聴く。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」「アプリケーション演習」「ビジネス基礎」の魅力を伝え、履修を促す。	・課題研究「くらそうや」において、他科からの販売商品の提供や「おもちゃの病院」の開催など連携した取り組みができた。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」や「アプリケーション演習」で、ビジネスマナーや基礎的なワードやエクセル操作を習得しており、検定試験にも取り組んでいる。	B	・今後も他科との連携ができるよう、様々な場面で考えていきたい。
		D	・ビジネス科と連携し、くらそうやへ商品提供を行っている。	・くらそうやへ商品を提供する。 ・工業科とも連携する。	・くらそうやについては昨年度の取り組みを振り返り、商品の製作の工夫を行う。 ・他学科との情報交換を積極的に行い、連携の方法を検討する。	・くらそうやへ提供した商品については、これまでの販売状況を振り返り、アクセサリなどの新商品を増やした。 ・新商品を中心に好調な売れ行きであった。 ・他科との連携は検討したが、行事や時間割との調整が難しく、実施に至らなかった。	A	・来年度も引き続き、ニーズのある商品を考案し、ビジネス科の販売に協力していく。 ・他科との連携については、検討を続ける。
		M	・R4年度4～12月における月平均時間外業務時間は、前年度を5時間(R3:24.2→R4:19.7)下回った。 ・R4年度月平均時間外業務時間が50時間を超える教職員はいなかった。 ・学校評価アンケート(教職員)によると教職員のワークライフバランスの評価が低く、業務量の減じた分が必ずしも生活の質の向上につながっていない。	・年間の時間外業務時間が360時間を超えない。 ・職場全体に業務を分担する土壌があり、チームで仕事をこなす意識が浸透している。 ・衛生委員会で職場の安全衛生管理について建設的な意見が交わされている。	・業務の可視化を推進し、誰もが他者の働きぶりに関心を持ち、職場で支えあえる環境作りを促進する。 ・一人一人が自分の働きぶりを振り返り、業務の優先順位を意識しながら、計画的に業務を進めることで、時間外業務の削減とともに、多忙感の解消を図る。 ・週休日振替の取得を徹底する。	・12月の段階で、時間外業務時間が360時間を超えた職員が5人いた。 ・R5年度は4月～8月まで時間外業務が増加したが、9月から4か月連続、時間外業務が前年度を下回った。10月下旬から金曜日の部活動の時間を短縮にしたことも効果があったと思われるが、それ以外のことも考えられる。 ・衛生委員会で職場全体の業務削減について意見が交わされている。	C	・業務改善のアンケート結果を衛生委員会で精査し、年度末職員会議で協議すべきこと等、校務運営委員会で協議し、業務改善につなげていく。
		5 業務改善の取組	長時間の時間外勤務者の解消【管理職】	M	・R4年度4～12月における月平均時間外業務時間は、前年度を5時間(R3:24.2→R4:19.7)下回った。 ・R4年度月平均時間外業務時間が50時間を超える教職員はいなかった。 ・学校評価アンケート(教職員)によると教職員のワークライフバランスの評価が低く、業務量の減じた分が必ずしも生活の質の向上につながっていない。	・年間の時間外業務時間が360時間を超えない。 ・職場全体に業務を分担する土壌があり、チームで仕事をこなす意識が浸透している。 ・衛生委員会で職場の安全衛生管理について建設的な意見が交わされている。	・業務の可視化を推進し、誰もが他者の働きぶりに関心を持ち、職場で支えあえる環境作りを促進する。 ・一人一人が自分の働きぶりを振り返り、業務の優先順位を意識しながら、計画的に業務を進めることで、時間外業務の削減とともに、多忙感の解消を図る。 ・週休日振替の取得を徹底する。	・12月の段階で、時間外業務時間が360時間を超えた職員が5人いた。 ・R5年度は4月～8月まで時間外業務が増加したが、9月から4か月連続、時間外業務が前年度を下回った。10月下旬から金曜日の部活動の時間を短縮にしたことも効果があったと思われるが、それ以外のことも考えられる。 ・衛生委員会で職場全体の業務削減について意見が交わされている。

A [90%以上] B [89~70%] C [69~50%] D [49~30%] E [29%以下]